

令和2年度 さいたま市立大谷場東小学校 自己評価書

校長 内山 一幸 印

1 学校で設定した「令和2年度の目標」及び関係する「評価項目」について

- (1) さいたま市「アクティブ・ラーニング」型授業を推進し、学ぶ楽しさや分かる喜びが感じられる授業を展開するとともに、朝学習の計画的な取組による基礎学力の向上を図る。－各教科の授業の状況
- (2) 様々な教科において『食育の視点』をもとにした授業を実践し、食への関心を高めるとともに、豊かな体と健やかな体をもつ児童を育成する。－各教科の授業の状況・学校課題研修での取組
- (3) 児童が安心して登校できるいじめのない学級、学校づくりを目指し、積極的な生徒指導、教育相談を組織的に展開する。－いじめ防止に向けた取組の状況、生徒指導・教育相談の状況
- (4) 保護者・地域の期待に応え、信頼される学校づくりを推進するため、保護者や地域住民から寄せられた具体的な要望や意見を把握し、適切に対応していく。－保護者アンケートの状況
- (5) 在校時間の管理を行うとともに、学年ごとのノー残業デーの設定や定時退勤を促す声掛けをしていくことで、教職員の在校時間の縮減を図ると同時にワーク・ライフ・バランスの充実を図る。－在校時間の状況

2 評価結果について

- (1) 新型コロナウイルス感染症拡大防止に留意しながら、さいたま市「アクティブ・ラーニング」型授業を推進していくため、協働解決の場面では、声の大きさや相手との距離に気を付けることを徹底させた。学校評価の児童アンケート「学校の勉強がわかる。」や保護者アンケートの「学習した内容を理解している。」の項目で、肯定的な回答がどちらも94%を超える結果となった。
- (2) 学校課題研修の一環として、様々な教科で『食育の視点』を取り入れた授業「食育プロジェクト」を実施した。授業後、児童が栄養教諭のところに質問に行く様子が見られるなど、主体的な学びへとつなげることができた。また、給食に関する掲示物を充実させることで、児童の給食に対する興味関心を高めた。学校評価の保護者アンケート「学校は、児童の健康に配慮した食に関する教育活動を行っている。」の項目で99%の肯定的な回答を得ることができた。
- (3) いじめ事案が発生した時には、迅速に組織対応の体制を組み、児童の気持ちに寄り添った解決に努めた。学校評価の保護者アンケート「学校は、いじめ防止に向けた取組やいじめ等に対して対応を行っている。」の項目について肯定的な回答をした保護者の割合が91%（昨年度89%）と高まった。また、個別支援が必要な児童については、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、教育委員会等の関係機関と連携をとり、落ち着いて学校生活が送れるようにした。
- (4) 地域や保護者から寄せられた要望や意見について、校内で検討し、対応した。特に、児童の安全に関する事については、迅速な対応を心掛けた。新型コロナウイルス感染症拡大防止の取組についても、PTAや地域の方に説明し、理解を得ながら進めた。学校評価の保護者アンケート「学校は家庭やPTA、地域の諸団体と連携を深めている」の項目について肯定的な回答が96%を上回った。
- (5) 管理職が進んで定時退勤を促す声掛けを行ったり、長時間勤務が続く教職員には業務の取り組み方について相談に乗ったりしながらその改善を図った。教職員全体の時間外勤務については、昨年度よりも縮減傾向が見られる。

3 次年度に向けた具体的な改善策について

- (1) 高学年に教科担任制を導入し、より授業の質の向上と充実を図っていく。また、中学校教員が小学校で年間を通じて授業をするなど、小・中の連携を深めていく。
- (2) 1人1台のタブレット端末を活用し、さいたま市「アクティブ・ラーニング」型授業や「プログラミング教育」をより充実させていくとともに、個別最適化された教育を実践していく。
- (3) 令和3年度より特別支援学級が開設されることを踏まえ、教育相談体制を見直し、個別の支援をより充実させていく。また、積極的な生徒指導についても継続して取り組んでいく。
- (4) 令和3年度よりコミュニティスクールとなるため、学校運営協議会を柱として学校運営の改善と児童の健全育成に取り組む。
- (5) 教職員の在校時間を短縮し、ワーク・ライフ・バランスの充実が図れるように、教育課程を工夫する。

令和2年度 さいたま市立大谷場東小学校 学校関係者評価書

さいたま市立大谷場東小学校

学校関係者評価委員長 会田 耕吉 印

1 学校関係者評価の実施体制

- (1) 構成人数 9名
- (2) 実施回数 2回

2 学校関係者評価（学校関係者評価委員の意見等）

- (1) 学校評価の結果の報告から、大谷場東小学校の児童は学習によく取り組み、よく理解していることがわかる。「GIGA スクール構想」に伴う学校の IT 化がさらに進んで行くことを期待している。
- (2) 臨時休業中の取組となった「スタディ・エッセンス」については、内容も活用の仕方を含めて、今後改善がなされるとよい。
- (3) 児童にとって安心・安全な学校にしていくことが大切である。1年生の下校に付き添うことや、いじめ問題に係る丁寧な対応を今後も継続して行ってほしい。
- (4) 学校評価アンケートの「地域との連携」について、多くの保護者が肯定的な回答をしている。来年度からコミュニティスクールとなるので、今まで以上に地域に向けて情報を発信し、協力を依頼するなどの取組を行っていくとよい。
- (5) 各家庭の健康管理については、温度差を感じることもあるが、学校が新型コロナウイルス感染症拡大防止策にしっかりと取り組んでいると思う。引き続き、国の方針や教育委員会からの通知以外にも情報収集に努め、適切な対応をとるようにして行ってほしい。

学校関係者評価を受けた学校の対応

- (1) 児童、保護者ともに学習に対して前向きに取り組んでいると回答している割合が高い。来年度は『GIGA スクール構想』を踏まえ、タブレット端末等の授業での活用方法を研究し、より一層個別最適化した学びができるように授業実践を積み上げていく。
- (2) 「スタディ・エッセンス」の今後の活用については、校内でも検討し、授業中に活用方法を児童に指導するなど、家庭でもスムーズに取り組める手立てをとるようにしていく。
- (3) 児童にとって安心・安全な学校としていくために、交通安全教育や情操教育をあらゆる機会に行っていく。そして、児童一人ひとりの気持ちに寄り添い、安心して学校生活を送れるようにしていく。
- (4) 学校運営協議会を中心に、地域の方々や保護者が学校運営に参画するようにしていくことで、学校運営の改善と児童の健全育成に取り組んでいく。
- (5) 感染症の拡大防止や予防の取組に限らず、変化の著しい社会情勢に対して、進んで情報収集を行い、変化に対応できる学校づくりを行っていく。

さいたま市立大谷場東小学校長 内山 一幸 印